



提言④ 「サーモン回帰の機運醸成」

【提言理由】

若者を町内に縛りつけることには無理がある。むしろ外の世界に触れて教養を身につけ、地元に戻ってくる人材を育成しなければならぬ。

中高生時代からまちづくりに携わることが、子どもたちの町に対する思いを醸成する機会となる。子どもたちが抱く町に対する思いは、良いものばかりとは限らないが、いかに郷土愛を育てていくか、大人が果たすべき役割は大きい。

まずはワークショップなどを通じて、子どもたちと大人が率直に意見を交わす場を設け、子どもたちに郷土愛を醸成していくことが大切である。

外の世界に送り出した子どもたちが、大きい人間になって帰ってきてもらえるよう、町全体で若者を応援する機運を醸成したい。

【用語解説】

サーモン回帰とは、サケが海で成長したのち、産卵のために生まれた川へ帰ってくる習性から連想した造語です。



「10年後の南会津町へ生かすまちづくり案」をテーマにワークショップを行いました



平成31年2月2日(土)に開催した田島高校生との意見交換会には15名の生徒が参加



提言⑤ 「会津山村道場を核とした体験型観光コンテンツの造成」

【提言理由】

近年の訪日外国人観光客数は過去最大を更新しており、訪日の目的はモノ消費(買い物)からコト消費(体験)に変化し、日本各地で体験コンテンツが生み出されている。また、訪日外国人観光客に限らず、日本国内でも若者の考えに変化が生じ、物欲は希薄になり、趣味や経験のためにお金を使う人が増加している。

会津山村道場はキャンプ場やコテージなどの宿泊施設を保有し、周辺には豊富な自然資源がある。アウトドアアプリが再燃する中で、アクティビティ系の体験コンテンツを造成すれば大きな誘客効果を生むことができる。体験コンテンツを充実させ、滞在時間を確保することで周辺地域の宿泊客の増加につながる。

体験コンテンツの造成にあたっては、地元のディープな魅力を発見できるモデルコースを設定し、それぞれの魅力を紹介できるガイド付きメニューの造成が必要ではないか。



伝統的建築物の建築技術に触れ茅葺屋根の美しさを再認識



ワカモノ会議メンバー同士で地域の魅力を再発見する旅を企画



提言⑥ 「関係人口プラットフォームの構築」

【提言理由】

地方では人口減少と高齢化が進み、地域づくりの担い手不足という課題に直面している。地域と多様に関わる人々を指す「関係人口」に着目し、地域外からの交流の入り口を増やす必要がある。

首都圏で開催したワカモノ会議の中で学んだことは、地方(ふるさと)に関わりを持ちたいという若者や、自らの能力を生かして地域に貢献したいと考える若者が多くいること。意欲のある若者と意見を交わす機会は、今後のまちづくりを考える上で重要な要素である。

意欲ある若者と定期的に交流し、実際に町へ足を運び、まちづくりに携わっていただく機会を設ける必要がある。変化を生み出すことができる人材が地域に根付き、地域の担い手として活動できるプラットフォームを構築することが求められる。

【用語解説】

プラットフォームとは、組織や担い手など「まちづくりの基盤となるもの」を指す。



「ワカモノ会議 in Tokyo 2020」では移住・定住の実体験を絡めた意見交換を行いました



「ワカモノ会議 in Tokyo 2019」では高校生との意見交換会で示された提言をさらに深掘りしました



提言⑦ 「中心市街地活性化のため、まちなか活動拠点を整備」

【提言理由】

中心市街地に若者を呼び込むことで、中心市街地の活性化を生み出すことができる。まちなかに若者の活動拠点を設置し、まちづくりへ参画しやすい環境を整備したい。

イベント開催やコミュニティ活動に利用できるリーススペースとして提供できれば、積極的に活動する若者が増え、まちづくりの担い手育成につながる。また、学生が自由に活動できる場としても機能し、郷土愛を醸成する大きな役割を担う施設となる。

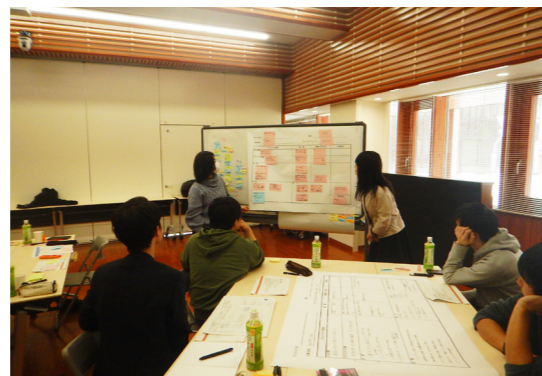
さらには、育児中の母親などが子どもを連れて気軽に立ち寄れる子育て支援スペースを併設することで、新たなコミュニティの形成も期待される。拠点の整備にあたっては、若者の有志を募り、自らの手で空き家にリノベーションを施すことも検討しているのので、町の支援をお願いしたい。

【用語解説】

リノベーションとは、既存の建物に改修を行い、性能を向上させたり、付加価値を与えたりすること。



南会津ワカモノ会議の4年間の取り組みを通じて今回の提言をまとめ上げました



中心市街地活性化など議論を深めるためメンバー同士で合宿を実施